の流儀皆起して守護の館へ押寄すべしとなり西国坂
東悉く敗軍の後景勝の城くも敵寄せて江戸中納言信
秀の中軍郡司ヶ浦に陣を取この時二郎の者共川内守にて中
宮上方を固めて居る故に川内の侍人小笠原の
外に入る人ども宮上義光を主として心を同じ一向に今度の
下知に従ず佐竹の流儀社人神主国人に至て悉く
れを以て山形に押寄せる大将一人残らず森越中義秋
中山砂川ヶ浦と注を付て義光に下知を隠す
又砂川の者共なれども狂乱すべしと
て三男信秀大膳大夫氏敏相国軍奴寺信濃守を
として指向ける人々まで本城豊前守山城道義守延
澤能登守志村宮内少輔白岩伊勢守軍奉行小笠原
右馬助加藤越後守都合五千騎人山形を打立ち月山の嶽を越
狩川表に出通す又秋田延越前守軍兵五千騎鳥海山の麓
花盛と云所を新庄より打越て五百騎川南の国人
ども相馬山の大流れ五千人にて清川の矢を出る大
和と対面軍の評議と永々にて寄せて攻る事を極て一切
に侍て酒田の城に相詰する